



個人投資家向けオンライン会社説明会 大同薬品工業の成長に向けた取り組み

ダイドーグループホールディングス株式会社
(東証プライム : 2590)

2022年10月18日

- | | | |
|-----------|-----------------------------|-------------|
| 01 | ダイドーグループホールディングスについて | P.03 |
| 02 | 大同薬品工業の成長に向けた取り組み | P.11 |

本資料内で記載する計数は百万円未満を切り捨て表示しているため、内訳と合計が合わない場合があります。なお、増減比等は、小数点第1位未満を四捨五入の上、表示しております。

本資料に記載されている、当社グループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の業績に関する見通しであり、これらは当社において現時点で入手可能な情報による当社経営陣の判断および仮定に基づいています。従って、実際の業績は、不確定要素や経済情勢その他リスク要因により、大きく異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。

01 ダイドーグループホールディングスについて

ダイドーグループホールディング株式会社
執行役員コーポレートコミュニケーション部長
長谷川 直和

会社名	ダイドーグループホールディングス株式会社
本社所在地	大阪市北区中之島二丁目2番7号
代表者	代表取締役社長 高松富也
会社設立	1975年1月27日
事業年度	毎年1月21日から翌年1月20日まで
資本金	1,924百万円
発行済株式総数	16,568,500株
単元株式数	100株
株主数	35,089名
連結従業員数	4,029名

(2022年1月20日現在)



代表取締役社長 高松 富也

略歴

2004年4月	入社
2008年4月	取締役就任
2009年4月	常務取締役就任
2010年3月	専務取締役就任
2012年4月	取締役副社長就任
2014年4月	代表取締役社長就任（現任）

「こころとからだに、おいしいものを。」を皆様にお届けする

グループ理念



人と、社会と、共に喜び、共に栄える。

その実現のためにDyDoグループは、ダイナミックにチャレンジを続ける。

グループビジョン

DyDoはお客様と共に。 高い品質にいつもサプライズを添えて、「オンリーDyDo」のおいしさと健康をお客様にお届けします。

DyDoは社会と共に。 グループ全体で生み出す製品・企業活動「オールDyDo」が、豊かで元気な社会づくりに貢献します。

DyDoは次代と共に。 国境も既存の枠組みも越えて、次代に向けて「DyDoスタンダード」を創造します。

DyDoは人と共に。 飽くなき「DyDoチャレンジ」で、DyDoグループに関わるすべての人の幸せを実現します。

グループスローガン

こころとからだに、
おいしいものを。



2030年のありたい姿として、2019年1月に策定

世界中の人々の楽しく健やかな暮らしを クリエイトするDyDoグループへ

DyDoはお客様と共に。



お客様の健康をつくります

おいしさへの飽くなき探求心のもと、
世界中のお客様の健康や生活の質向上に
貢献する商品・サービスをお届けします。

DyDoは社会と共に。



社会変革をリードします

持続可能な社会のために、
常識に捉われず、新たな視点から
社会変革を自らリードします。

DyDoは次代と共に。



次代に向けて新たな価値を生み出します

革新的なテクノロジーを活用し、
すべてのステークホルダーに
ワクワクや驚きといった体験を提供します。

DyDoは人と共に。



人と人のつながりをつくります

グループ内外と柔軟に連携し、
多様な価値観や能力を尊重しながら
新たな共存共栄を推進します。

祖業の医薬品配置販売業から派生しドリンク剤の受託製造事業へ

戦後、創業者が
配置薬業を始める



**1956年 大同薬品(株)設立
(現・大同薬品工業(株))**

アンプル剤の製造を経て、
ドリンク剤の製造を開始



1970年代
自動車の普及にあ
わせて、ガソリンスタ
ンドでドリンク剤や
缶コーヒーを販売



清涼飲料販売
事業を分社化

1975年
ダイドー(株)設立 (現・ダイドードリンコ(株))



高度経済成長期に
自販機市場の拡大
とあわせて成長

1991年
大同薬品工業で
は受託製造を本
格化。現在のビジ
ネスモデルへ。



【国内飲料事業トピックス】 アサヒ飲料株式会社との包括的業務提携契約について

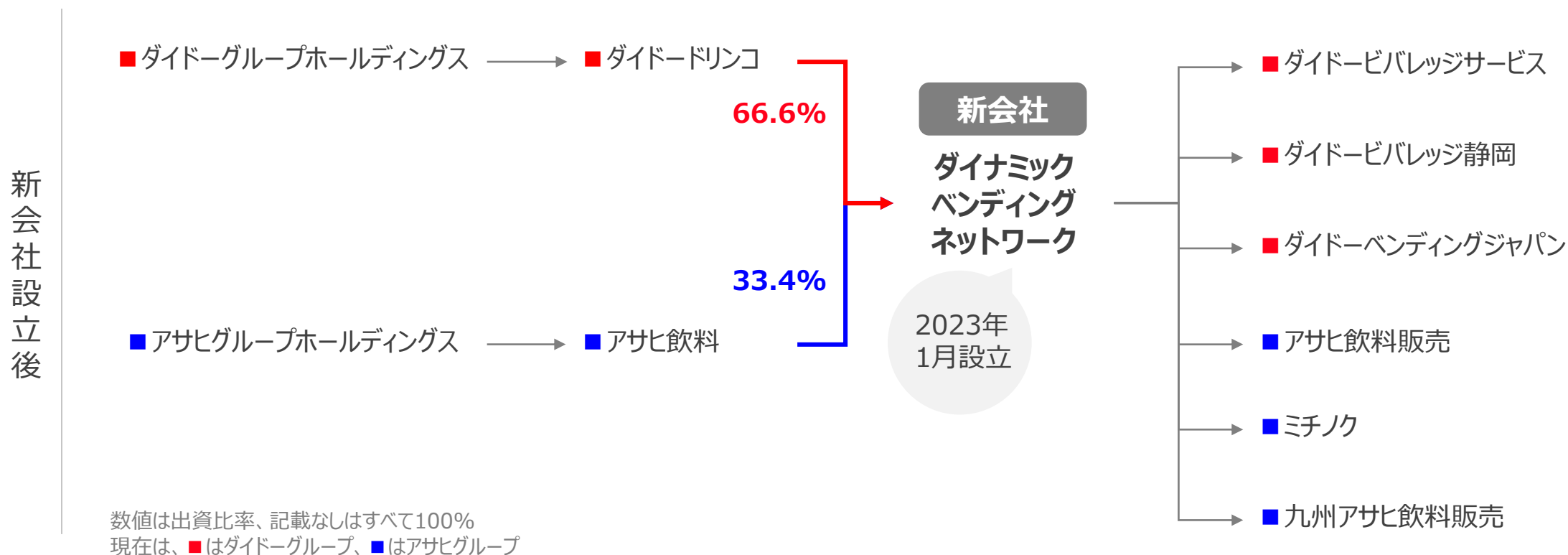


自動販売機事業の成長・発展を図るべく、両社の企業価値向上を目的として、自動販売機事業に関する包括的業務提携契約を締結

- 直販事業の一体的運営によるオペレーションシナジーの追求
- 商品の相互販売によるお客様接点の拡大
- 製造受委託による原価低減
- 効率的な資源回収による環境負荷の低減

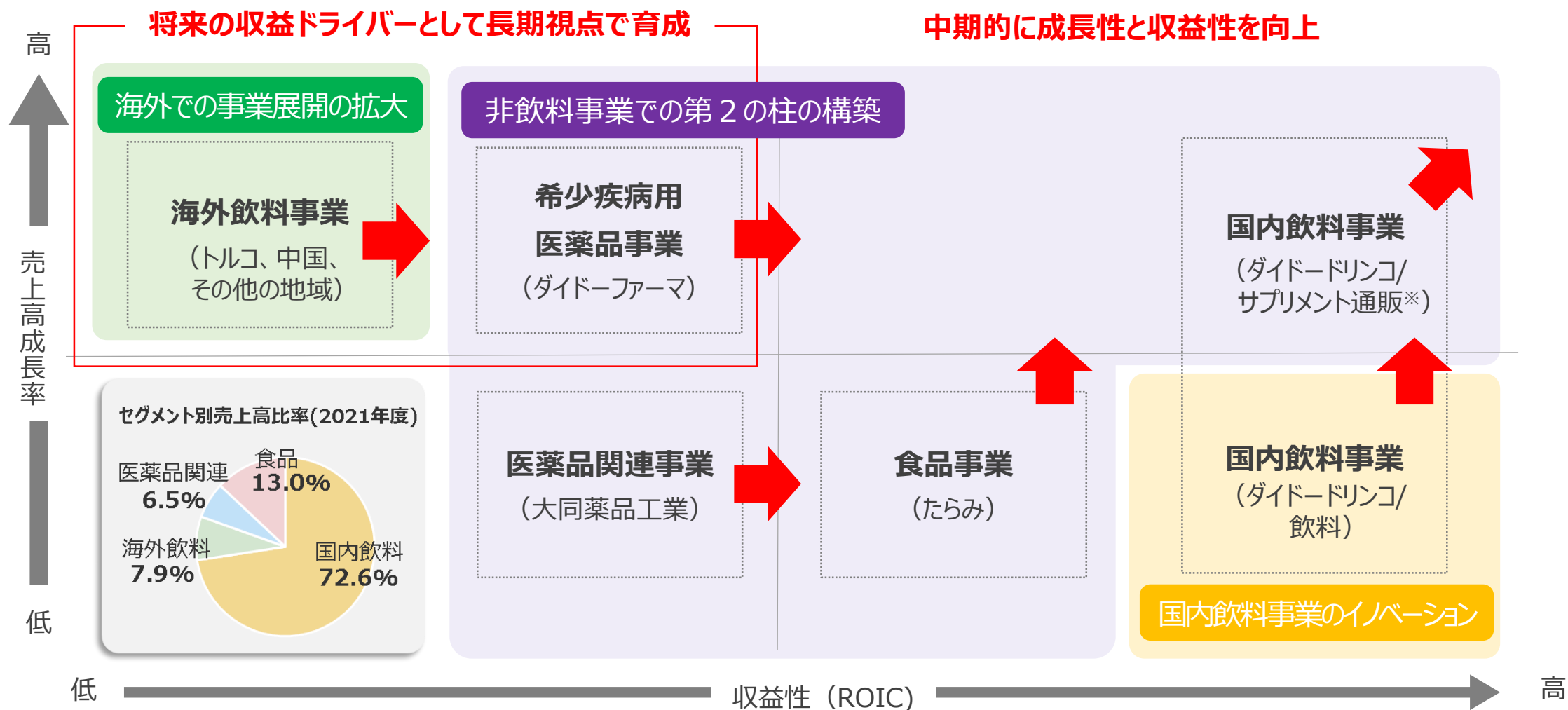
直販事業の一体的運営によるオペレーションシナジーの追求

- 新会社設立により、直販事業の一体的運営を推進する
- ダイドーのスマート・オペレーションを展開し、オペレーションスピードと品質管理能力、生産性を向上する
- 将来的な人手不足、雇用確保という課題を解決する



「2030年のありたい姿」の実現に向けて、事業ポートフォリオ戦略を推進

➡ は成長の方向性



* サプリメント通販は、ダイドードリンコが育成中の事業のため、会計上の事業セグメントは国内飲料事業に含まれます。

02 大同薬品工業の成長に向けた取り組み

大同薬品工業株式会社
代表取締役社長 宮地 誠

I . 大同薬品工業の概要	P.13
II . 今後の戦略	P.19

I . 大同薬品工業の概要



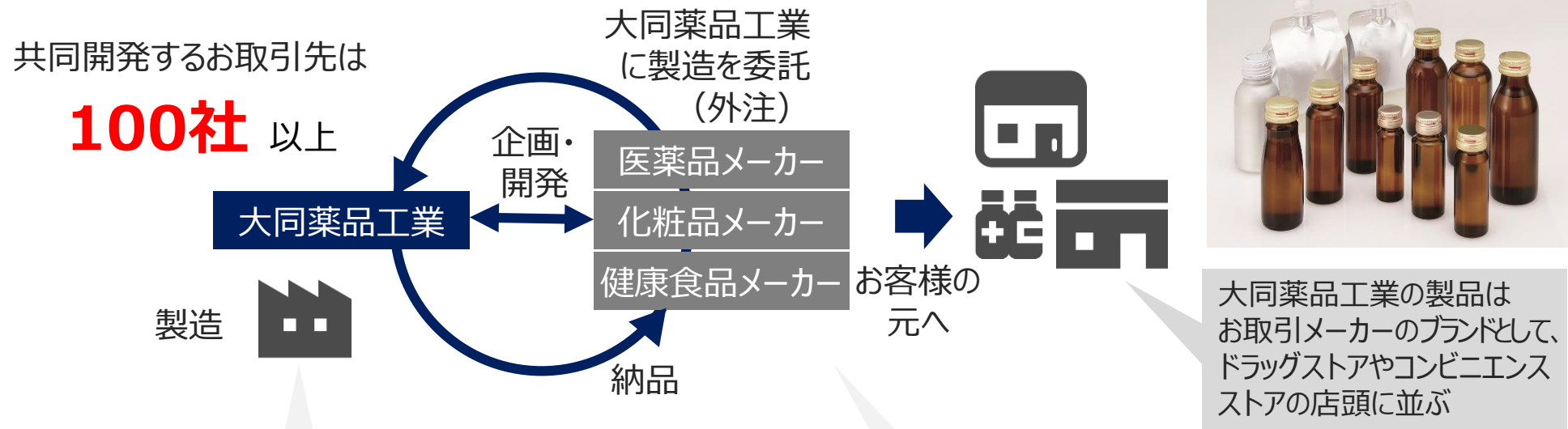
会社名	大同薬品工業株式会社
本社所在地	奈良県葛城市新村214番地1
代表者	代表取締役社長 宮地 誠
会社設立	1956年7月11日
資本金	100百万円
従業員数	270名
親会社	ダイドーグループホールディングス株式会社

沿革

- 1956年 奈良県御所市に大同薬品株式会社を設立
- 1959年 社名を大同薬品工業株式会社に変更
- 1967年 本社工場を奈良県御所市に新設移転
- 1975年 営業部門を分離しガイドー株式会社（のちのガイドードリンコ）を設立
- 1991年 奈良県葛城市に工場を新築移転 受託専門メーカーへ転換
- 2003年 ISO 9001 認証取得
- 2005年 本社を現在の奈良県葛城市に移転
- 2013年 FSSC 22000 認証取得
- 2019年 奈良県に第3工場竣工（2020年2月本稼働）
- 2019年 群馬県館林市に関東工場竣工（2020年7月本稼働）

医薬品メーカー・化粧品メーカーなどのドリンク剤・パウチ製品の受託製造に特化したビジネスを展開
受注生産をするだけでなく、製品の企画・開発から携わる

大同薬品工業のビジネスモデル



特徴①

医薬品・医薬部外品の製造免許を持つ工場

- 年間 5 億本を超える製造能力
- 安全・安心な生産体制
- 高い製品品質を確保する 品質管理体制・品質保証体制

特徴②

受託専門として築いた医薬品メーカー・化粧品メーカーなどの顧客基盤

- お客様のニーズ・ブランドコンセプトに合わせた製品の開発能力
- 長年のノウハウの蓄積から生まれる独自の提案能力

2拠点4工場体制で、多品種小ロットの製造に対応

所在地	奈良県葛城市			群馬県館林市
工場				
	奈良工場			関東工場
	第1工場	第2工場	第3工場	-
竣工	1991年	1999年	2019年	2019年
本稼働	-	-	2020年2月	2020年7月
製造容器の形態	瓶	瓶	パウチ	瓶
ライン数	3ライン	1ライン	1ライン	1ライン
年間生産能力	3億5千万本		3千万袋	1億5千万本

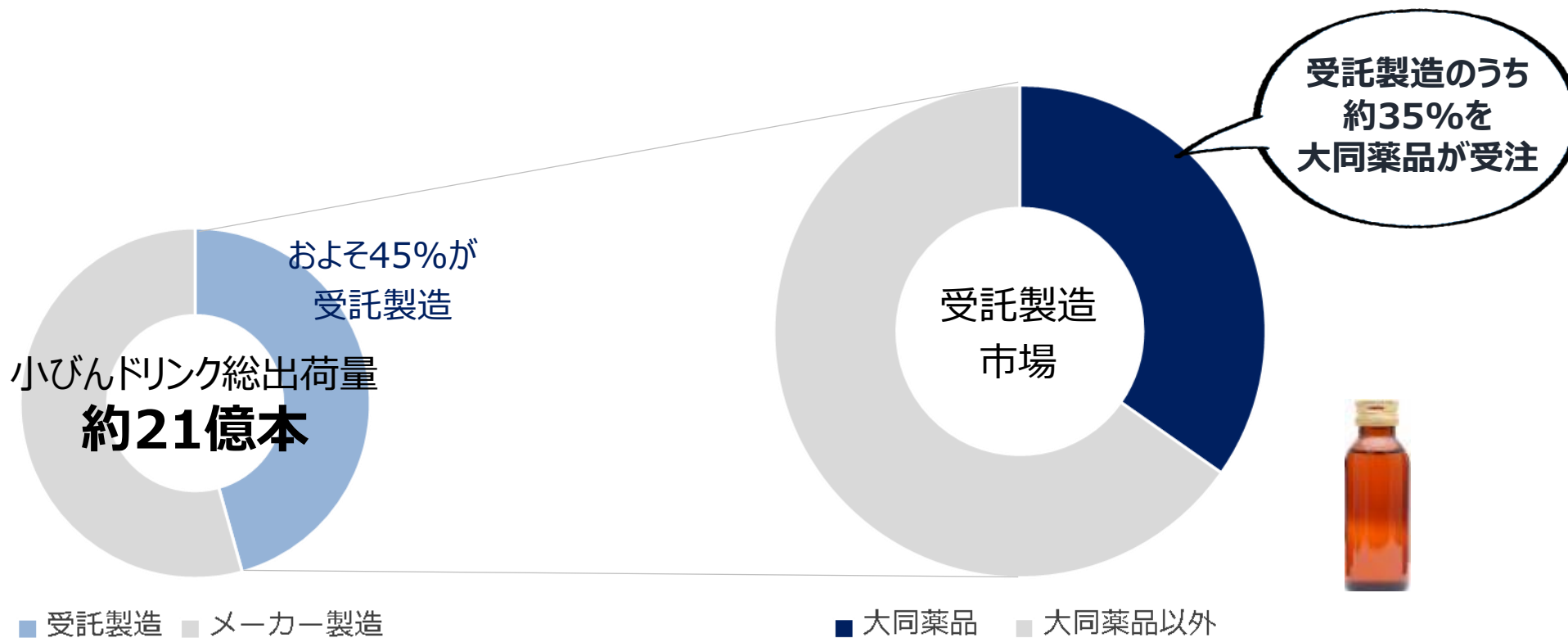
ダイドーグループのIRサイトでは、工場見学動画を配信中。ぜひご覧ください！



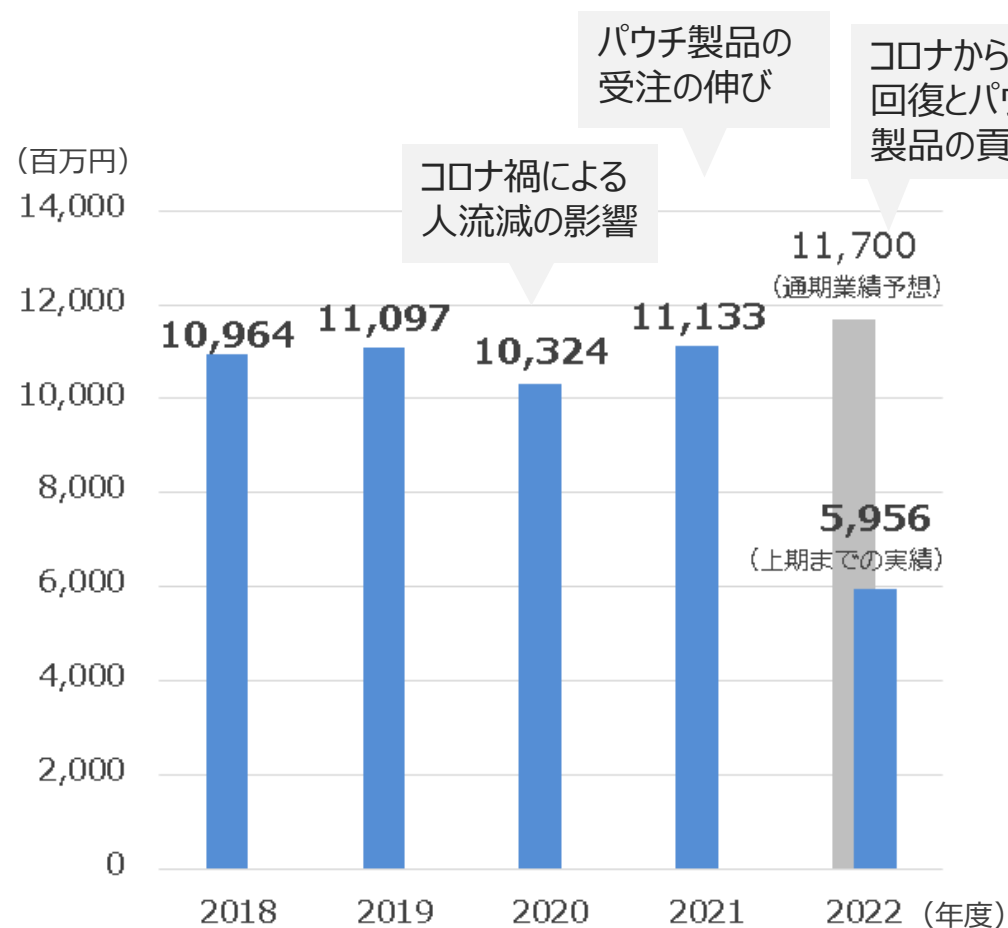
<https://www.dydo-ghd.co.jp/individual/virtual/>

ドリンク剤の受託製造メーカーとして圧倒的なポジションを持つ

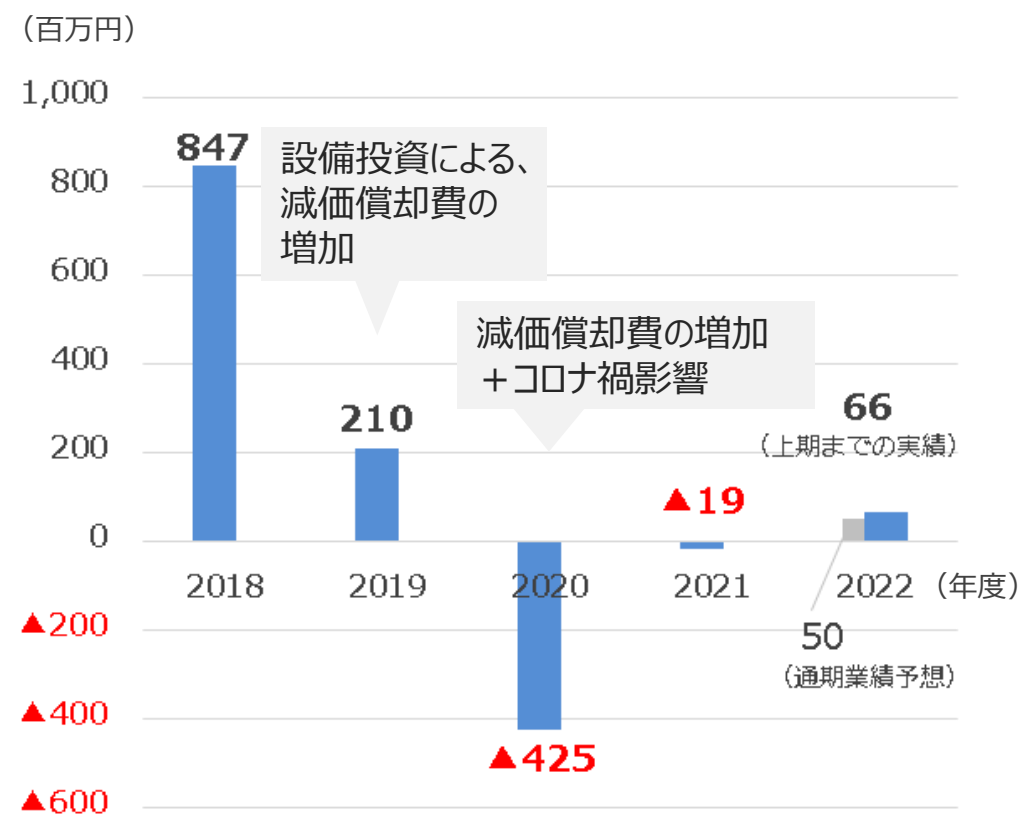
2021年度ドリンク剤市場（当社調べ、概算）



売上高推移



営業利益推移

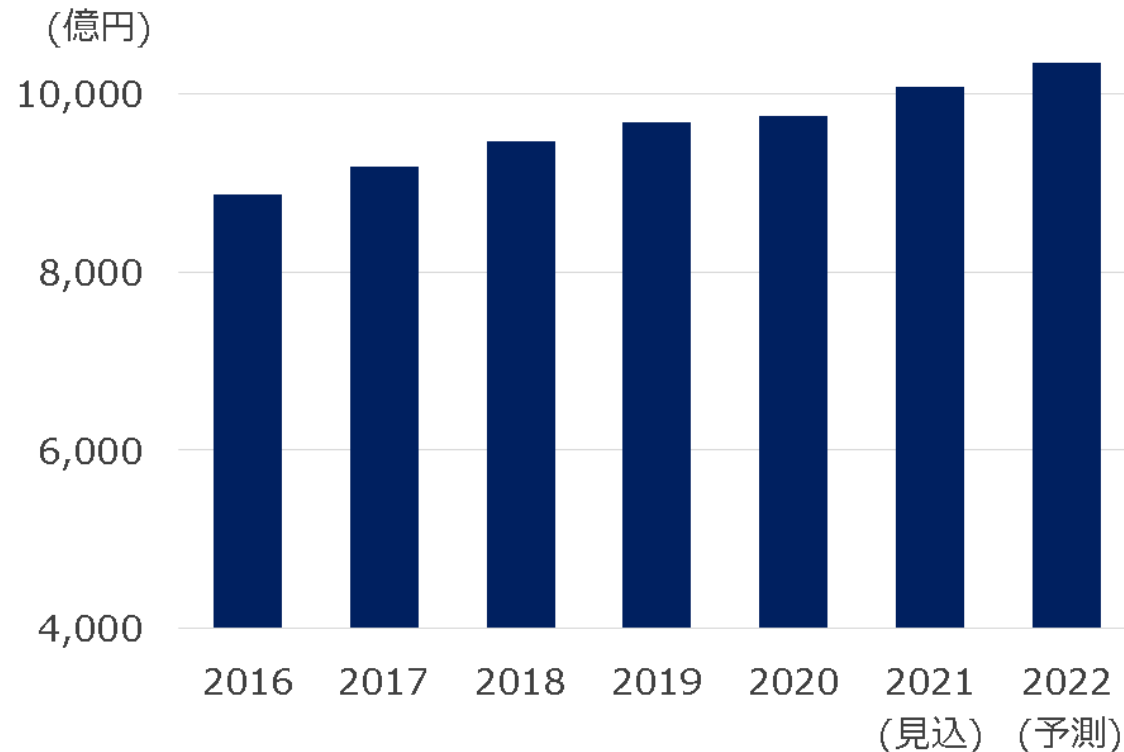


(各事業年度は、1月21日から翌年の1月20日まで)

Ⅱ. 今後の戦略

中長期的な拡大が続くヘルスケア市場の中で、長年培ってきた強みを生かしながら、健康・美容分野での製造受託企業No.1をめざしていく

健康・美容食品市場



出典：株式会社富士経済「H・Bフーズマーケティング便覧2022」

中期経営計画2026における戦略

- 関東工場の稼働率アップと品質管理体制の強化により、業界トップの高品位量産体制を確立
- 収益構造の再構築
- 人材の育成・強化

中期経営計画2026のKPI

KPI	2021年度	2026年度
受託本数 (見込/概数)	320百万本	400百万本
稼働率	2021年度比:	向上 [※]

[※]実数非開示

営業活動強化による受注の拡大と、製造体制の最適化により、工場稼働率の向上をめざす

受注本数拡大に向けた取り組み

- 大口の新規受託に向けた営業の強化により、関東工場の稼働率を向上
- 開発力強化による、医薬部外品パウチの拡大により、安定したパウチラインの稼働を確保



製造面での取り組み

- 全5ラインのドリンクラインの製造を効率的に配分し直し、最適な生産体制を再構築
- 製造ラインオペレーターの技能拡大による、フレキシブルなライン稼働



製品容器の「ガラスびん」は地球にやさしい天然素材

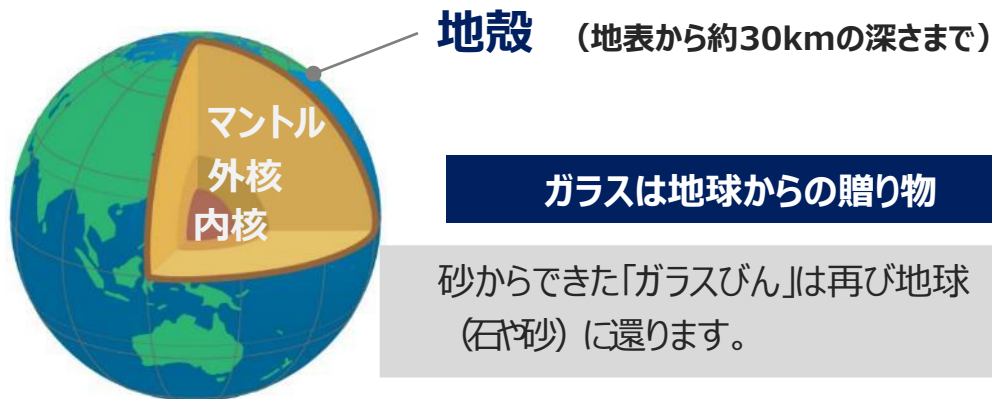
工場から排出される廃棄ビンは再びドリンクびんの原料として活用をしている

- ガラスびん（ソーダ石灰ガラス）の組成は、地殻の組成とほぼ同じ、珪砂や石灰石などの天然素材からつくられる
- 地球に優しく、環境を汚染するような物質を出すこともない

地殻の組成とガラスびんの組成

	地殻	ガラスびん
酸化ケイ素 (SiO ₂)	62%	72.2%
酸化アルミニウム (Al ₂ O ₃)	16%	2.0%
酸化カルシウム (CaO)	8%	11.5%
酸化マグネシウム (MgO)		
酸化ナトリウム (Na ₂ O)	6%	14.3%
酸化カリウム (K ₂ O)		
酸化鉄 (FeO)	7%	-

ガラスの「主な原料」



ガラスは地球からの贈り物

砂からできた「ガラスびん」は再び地球（石や砂）に還ります。



os://kumamotomuchu.com/beach-glass-7/

**「健康・美容」分野での
製造受託企業NO.1になります**



補足資料

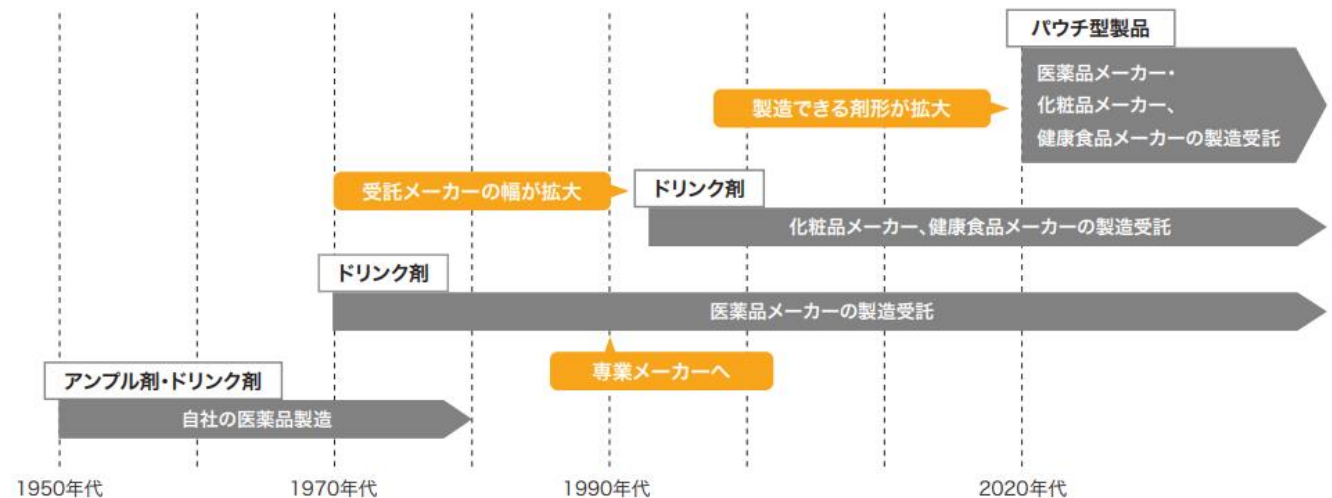
100社を超える幅広いお取引先とのお付き合いにより、製品開発能力や提案能力が向上
近年でもパウチ製品の開発を新たに行うなど、チャレンジの幅を広げている

- お取引先のコンセプトに合わせた商品提案を行えるノウハウ
- 新商品の開発は、開発担当自身も営業とともに動き、迅速に対応
- 原料メーカーとの情報交換や、市場研究による新素材の探求



■ 時代やお客様のご要望に合わせて、受注製品の幅を広げてきた

既存商品の製造に加え、
新たに年間
約 **40** 品目
を製品化

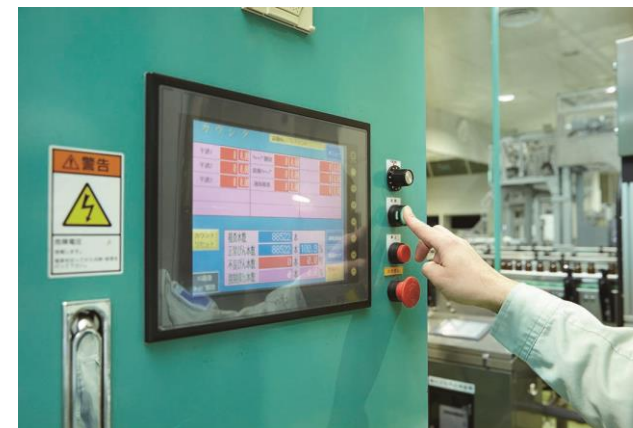


徹底した品質管理を行い、各種認証を取得。安全・安心な生産体制を敷く

参入障壁が高くスイッチングリスクが極めて低い医薬品・医薬部外品のドリンク剤やパウチ製品の製造が可能

- ISO9001・FSSC22000 認証取得*
- 水質・原材料への厳重な試験と検査
- 生産環境の徹底した管理と安全性を実現
- お取引先から受ける監査も元に、業務レベルを日々改善

* ISO9001 : 企業の品質保証体制の国際規格
FSSC22000 : 食品安全認証財団が所有・保持する
食品安全管理システムのスキーム



2019年に群馬県に関東工場を竣工（2020年本格稼働）し、生産体制を拡大
時を同じくして奈良工場にパウチ製品の製造ラインを敷設。製造能力が2拠点4工場に拡大

■ 関東工場新設の狙い

- 関東圏において受託製造メーカー唯一の工場
- 主要消費地に近接するエリアで製造することによるコスト競争力の強化
- お取引先・大同薬品工業双方にとってのBCP*対応

*BCP（Business Continuity Plan）：
大規模災害などが発生した時に、商品供給が中断されるリスクを軽減するため、あらかじめ対応策等を立てておくこと



■ 奈良工場のパウチライン新設の狙い

- 成長するパウチ市場における「医薬品」「医薬部外品」規格商品への期待
- 製造可能剤形の拡充による取引先ニーズへの対応幅の拡大

